

2025年9月29日

各位

会社名 シンバイオ製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 吉田 文紀
(コード番号：4582)
問合せ先 IR室 (TEL：03-5472-1125)

プリンシドフォビルの悪性脳腫瘍に対する有効性を日本癌学会学術総会で発表

シンバイオ製薬株式会社(以下、シンバイオ製薬)は、プリンシドフォビル (brincidofovir、BCV) の悪性脳腫瘍に対する前臨床有効性評価に関する研究成果を、第84回日本癌学会学術総会 (2025年9月25～27日、石川県金沢市) で発表しました。本学会では、2025年4月に開催された米国癌学会 (AACR) での報告と同一内容¹がアンコール演題として発表されました。

発表概要

- ・ 演題タイトル：膠芽腫に対するプリンシドフォビルの前臨床有効性評価
- ・ 発表者：長谷 祥治
- ・ 発表番号：P-1249
- ・ 学会名：第84回日本癌学会学術総会
- ・ 会期・会場：2025年9月25～27日、石川県金沢市

本研究に関連した新規結果は、2025年11月に開催される米国神経腫瘍学会 (SNO：Society for Neuro-Oncology) において発表予定である旨を、既にプレスリリースでお知らせしています²。シンバイオ製薬は、BCVの悪性脳腫瘍領域における開発の可能性を引き続き検討してまいります。

以上

¹ 2025年5月12日付プレスリリース

² 2025年8月12日付プレスリリース

注記

悪性脳腫瘍（膠芽腫）

脳の神経膠細胞から発生する脳腫瘍を神経膠腫（グリオーマ）と呼びます。その中でも進行が非常に速く予後が悪いタイプがあり、最も悪性度が高いグレード4の膠芽腫では、診断後の中央生存期間は2か月から18か月と短く、5年生存率は5%以下です。なお、5年生存率が50%以下のがんは「難治性がん」と分類されます。そのひとつである膠芽腫は、国内で年間約2,000人、欧米では約21,000人の患者が発症すると推定されています。現在の標準療法では、放射線照射との併用でテモゾロミド(商品名：テモダール[®])が使用されています。また、血管新生抑制薬であるベバシズマブ（商品名：アバスチン[®]）も用いられます。しかし、およそ半数の患者は標準療法であるテモゾロミドに対して耐性を示します。この耐性を克服する治療法はまだ確立されていないため新しい薬剤の開発が強く望まれています。

3つの治療領域を柱とした布林シドフォビル（BCV）の事業戦略

シンバイオ製薬は2019年9月、BCVのグローバルライセンスを取得して以来、3つの治療領域において、そのポテンシャルを掘り起こすことを目的として世界最高レベルの研究機関と共同研究を進めてきました。現在、対象疾患領域として、造血幹細胞移植後のウイルス感染症領域をはじめ、第2の柱として血液がん・固形がん領域、第3の柱として脳神経変性疾患領域の3治療領域を中心に経営資源を集中して開発を進め、グローバルに事業展開することによりBCVの事業価値の最大化を目指しています。既に、第1の柱として、造血幹細胞移植後のアデノウイルス感染症における国際共同第3相臨床試験を欧州で開始しました。第2の柱である血液がん領域のNK/T細胞リンパ腫においては、第1b/2相臨床試験を開始し、現在、症例登録を進めており、2028年中の承認申請を目指しています。また、固形がん領域においても、脳腫瘍および頭頸部がんをはじめとして臨床試験開始に向けて検討を進めています。脳神経変性疾患においては、今後、多発性硬化症（MS）ならびに進行性多巣性白質脳症（PML）を対象として臨床試験を進める予定です。

